

利用者と協働する図書館

【取組概要】

本取組は、学生協働（定義：図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担うことにより、図書館について利用者と図書館が一緒になって考える）を通じて、学生の創造力・発信力・課題解決力・コミュニケーション力・読書力の向上を目指すものです。学生による選書ツアーや企画展示などの活動を行うほか、学修空間やサービスの改善により、学生協働の効果をより高めるとともに、従来から図書館の課題となっている利用者数の増加も目的としています。学生協働を軸として、学生・図書館員・教員が三位一体となり、学修支援、図書館の課題解決、学生の学修能力向上を目指します。加えて、図書館活動を再評価し発展させていくことを目標としています。

【取組実績】

本取組は2ヶ年に渡り「中央図書館における施設環境整備、学生協働、利用サービスの拡充」という3点を柱として活動を行いました。具体的な取組は以下の通りとなります。

1. 中央図書館における施設環境整備

(1) 書架増設

4階開架エリアの書架増設を行うことで、所蔵収容冊数は約9,000冊の増加となり、所蔵資料の開架率の向上と学生協働の活動や情報発信（学生企画展示等）の場を創出することができました。

(2) 空調設備増設

プレゼンホールの空調設備を増設したことで、プレゼンホールの温湿度管理を通年とおして安定して行えるようになり、利用時の快適性が格段に向上しました。

(3) プレゼンホール什器リニューアル

環境改善と利用促進、学生協働の活動の場を創出するため、プレゼンホールの什器の交換を行いました。什器の選定にあたっては、文学部図書館情報学専攻のゼミと協働し、複数社の協賛を得て、サンプル什器を設置した模擬ショールームを開設し、利用実験を行いました。学生や教員と意見交換する中で新たな発想が生まれ、今後のプレゼンホールの利活用について熟慮した什器の調達仕様を作成しました。結果として単純な施設整備に留まらない、協働した成果を上げることができました。

(4) 貸出・返却にかかわる什器の充実

自動貸出機を2階カウンター脇に設置し、ブックチェックユニット（資料の貸出時にタクトテープ感知マーカの信号を消去、返却時に信号を付加する装置）を2階入館受付に増設、返却ブックポストをFOREST GATEWAY CHUO 3階に増設しました。これらにより、貸出手続きの時間延長や図書館に来館することなく返却できる場所を増やすことができ、サービス向上につなげることができました。



リニューアル後のプレゼンホール



自動貸出機



返却ブックポスト

2. 学生協働

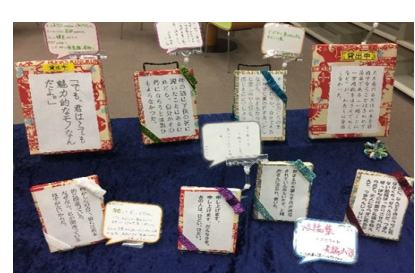
(1) 選書ツアー

2年間で計4回（書店・オンライン各2回）の選書ツアーを実施しました。選書した書籍のうち数冊のPOP（書籍の紹介文）を作成してもらい、書籍と一緒に展示を行いました。2021年度の選書ツアーでは、選書後にPOP作成のワークショップも行い、選んだ書籍をどのように他の人たちに発信するのが効果的かを学ぶ機会を設け、POP投票も行いました。また、選書本とPOPは紀伊國屋書店新宿本店で「中央大学学生が選んだおすすめ本フェア」として展示され、その様子が「HAKUMON Chuo」（web版）や紀伊國屋書店のHPに取り上げられました。選書ツアーに参加することで、本学図書館の蔵書の多さや電子書籍の存在を知ってもらうことができ、また、学生選書で選書された書籍は貸出される割合が高いことから、学生の視点を取り入れることが図書館の活性化に効果的であるということが分かる結果となりました。



(2) 「ほんのまくら」ワークショップ

「ほんのまくら」ワークショップとは、中央図書館の書籍内から惹かれる一文と、惹かれたポイントを紹介するカードを書いてもらうワークショップで、紀伊國屋書店から講師を招いて実施しました。ワークショップ後には、本の表紙が見えないように本を包装紙で包み、惹かれる一文である「ほんのまくら」と紹介カードを併せて展示しました。しばらく貸出が途切れていた本がまた借りられるなど、貸出冊数の向上につながる取組となりました。



(3) 図書館インターンシップ

図書館インターンシップは、全学部生・院生を対象にエントリーシートで選考し、オンラインで2日間実施しました（参加学生6名）。1日目は図書館施設や図書館業務、レファレンス実習、学生協働に関する事例紹介を通して図書館についての知識を深め、2日目はグループワークを行いました。学生同士で活発に議論を行うことで、図書館に関する知識を共有し、創造力・発信力・課題解決力・コミュニケーション力を養う場になりました。

3. 利用サービスの拡充

利用サービスの拡充により、より利用しやすい図書館となることを目指して、以下の取組を行いました。

- ・新たな学修スタイル（BYODの促進）の対応に向けた個人PC等利用エリアの大幅な拡大
- ・グループ学修施設の利用範囲の拡大
- ・蔵書点検の実施方法の見直し（開架エリア閉鎖期間の廃止）
- ・中央図書館における試験期の貸出禁止の試行的な廃止
- ・中央図書館における返却場所の増設
- ・学部学生卒論入庫申請時の担当教員による押印廃止および入庫説明会廃止
- ・卒論特別貸出申請のweb化

教育力推進事業に採択されてからの2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の来館が少なく、サービスの拡充の効果を具体的に実感することが困難な状況でしたが、今後も引き続き、上記取組の効果を測定していきます。

今回の取組では、選書ツアーやワークショップ、インターンシップ等の学生協働を通じて、学生の創造力・発信力・課題解決力・コミュニケーション力・読書力を向上させる取組を行ってきました。学生協働のどの企画も参加者の満足度は高く、本学図書館の良さを再評価する感想も寄せられたことから、学生のニーズに合った企画であったとともに、図書館に対する期待が大きいことを実感できる活動となりました。今後も、学生協働の活動と利用環境やサービスの更なる改善を行うことで、学生協働を発展させ、併せて利用者数の増加を目指します。

以上